株式会社乃村工藝社

２０１３年度（２０１４年２月期）
第1四半期　決算補足資料

証券コード:9716

http://www.nomurakougei.co.jp

１．2013年度(2014年2月期)第1四半期
連結決算概要

2013年度第1四半期 連結業績ハイライト

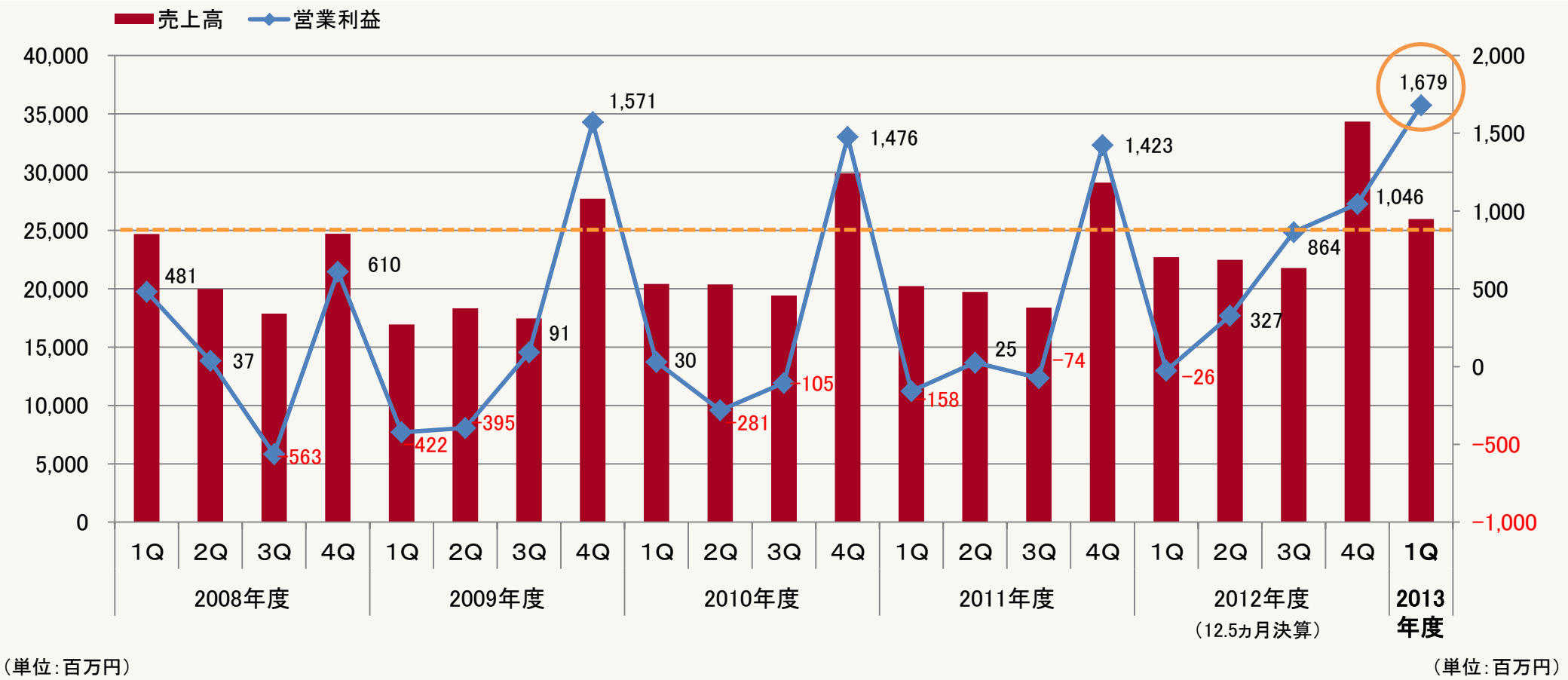
- 売上高は、専門店市場、広報・販売促進市場において新装・改装需要が拡大したため、14.4%の増収となった
- 営業利益は、総利益率が向上したことなどにより、大幅な増益となった

＜第1四半期＞	2012年度 （2013年2月期）	2013年度 （2014年2月期）	前年同期比　増減額（率）
売上高	22,712	25,983	3,270（14.4%）
営業利益	△26	1,679	1,706（　　ー）
当期純利益	△163	1,031	1,194（　　ー）

（単位：百万円）

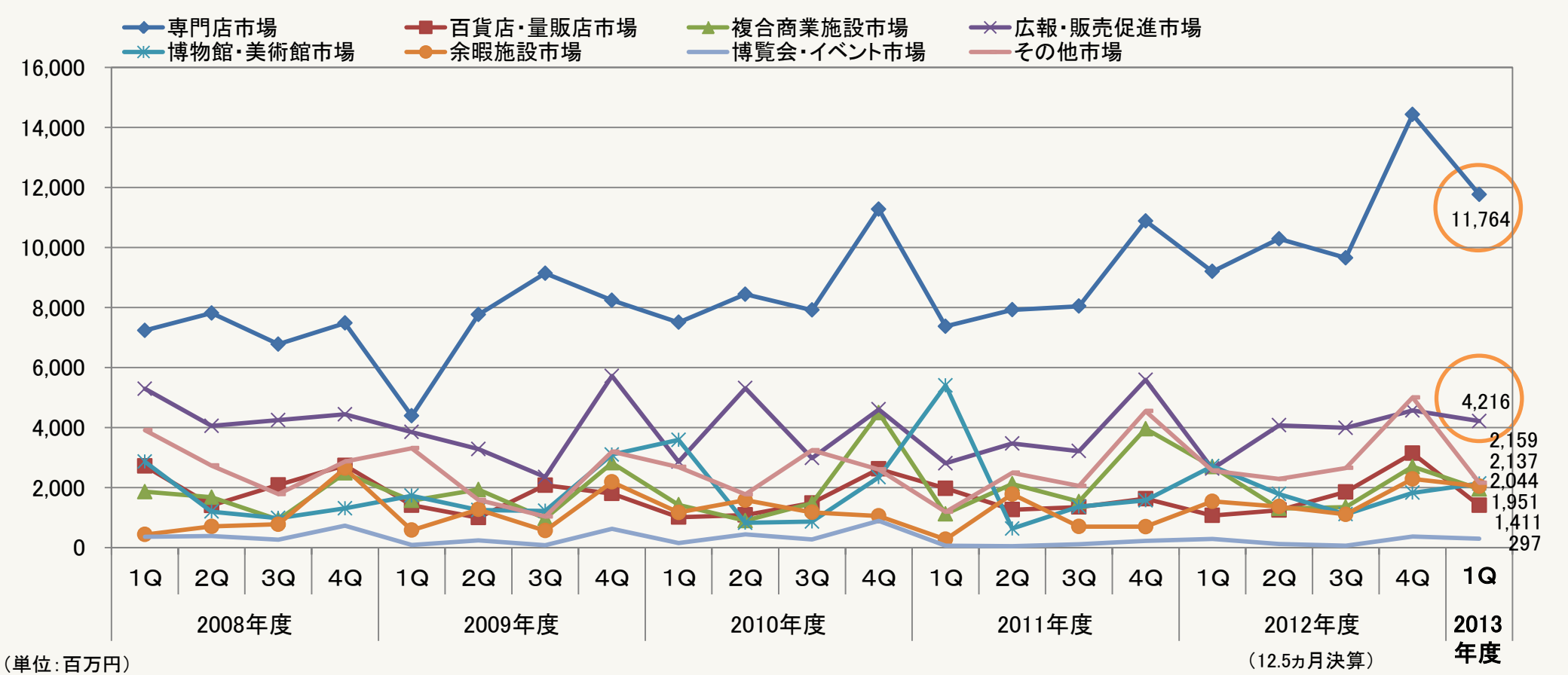
売上高・営業利益の四半期推移

- 第1四半期の比較において、売上高は250億円を超える高い水準となった
- 営業利益は、固定費の抑制効果に加え、商業施設分野を中心に利益率が良化したことにより前年同期に比べ大幅な増益となった



市場分野別売上高の四半期推移

- 専門店市場は、大型商業施設の開業にともなう新装需要があった前年同期を上回る実績となった
- 広報・販売促進市場は、住宅関連メーカーをはじめとして大型複合ビルにショールームが新設されるなど、ショールームの新装・改装需要が拡大し、前年同期に比べ伸長した



（注）不動産事業と飲食・物販事業はその他市場に含み、掲載しています。

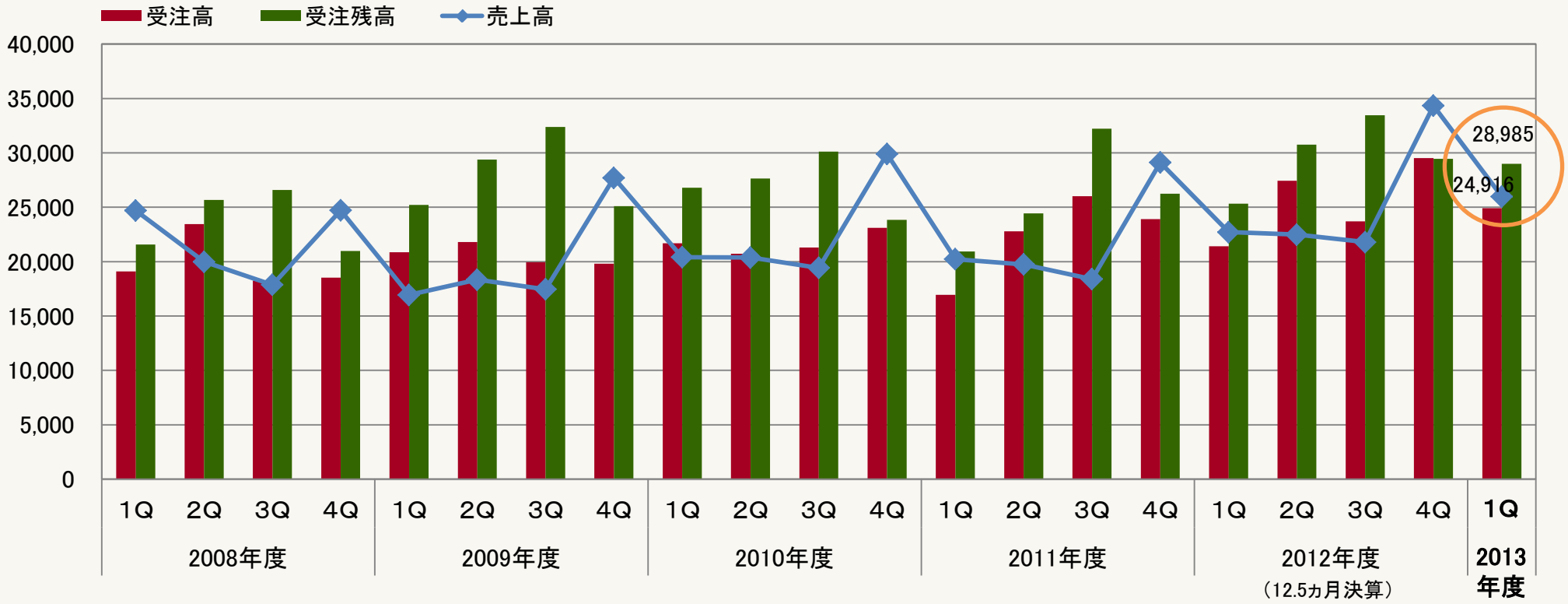
市場分野別の状況

- 主要都市における大型商業施設、百貨店の新装・改装需要が拡大したことにより専門店市場、百貨店・量販店市場の売上高が増加した
- 広報・販売促進市場は、住宅関連、電力、家電メーカーのショールームを数多く手掛け、大幅な増収となった

＜第1四半期＞	2012年度		2013年度		売上構成率		ポイント
	売上高	前年同期比	売上高	前年同期比	前期	当期	
専門店市場	9,198	24.7%	11,764	27.9%	40.5%	45.3%	大型商業施設などに出店するアパレル店舗や飲食店のほか、金融店舗などの新装・改装の需要が拡大した
百貨店・量販店市場	1,072	△45.7%	1,411	31.7%	4.7%	5.4%	主要都市の百貨店の改装を数多く手掛け、増収となった
複合商業施設市場	2,699	140.4%	1,951	△27.7%	11.9%	7.5%	東京・大阪の主要駅周辺の商業施設のほか、空港などの商業スペースの環境演出を手掛けたが、前年同期に大型案件があったため減収となった
広報・販売促進市場	2,629	△6.4%	4,216	60.4%	11.6%	16.2%	大阪駅周辺の大型複合ビルに出展する住宅関連、電力、家電メーカーのショールームの新装需要があった
博物館・美術館市場	2,714	△49.8%	2,137	△21.2%	12.0%	8.2%	とおの物語の館、福井県立恐竜博物館などの改装を手掛けたが、大型案件がなく減収となった
余暇施設市場	1,541	459.1%	2,044	32.6%	6.8%	7.9%	大型温浴施設が完工したことに加え、ホテルの改装需要が拡大していることにより前年同期に比べ増収となった
博覧会・イベント市場	290	342.3%	297	2.3%	1.3%	1.2%	姫路城の公開施設運営などの公共イベントを手掛けた
その他市場	2,184	164.8%	1,556	△28.8%	9.6%	6.0%	企業オフィス、ワークスペース、ブライダル施設、美容クリニック、空港ラウンジなどの内装・展示、環境演出を手掛けたが、前年同期に大型案件があったため減収となった
ディスプレイ事業　小計	22,329	12.5%	25,379	13.7%	98.3%	97.7%	
不動産事業	113	△5.8%	119	5.1%	0.5%	0.4%	所有する商業・オフィスビルの賃料収入によるもの
飲食・物販事業	270	9.7%	484	79.5%	1.2%	1.9%	博物館のミュージアムショップや駅ビルなどの飲食・物販店舗を運営、昨年に東京ソラマチ等に出店したため、増収となった
合　計	22,712	12.3%	25,983	14.4%	100.0%	100.0%	（単位：百万円）

受注高・受注残高の四半期推移

- 第1四半期の比較において、受注高、受注残高とも高い水準を確保している
- 前期末に引き続き、受注環境は堅調に推移している



（単位：百万円）

市場分野別の受注高・受注残高

- 受注高は、大型商業施設の新装・改装にともなうテナント工事の需要拡大、複数出店するアパレル店舗、金融店舗の一括受注などにより専門店市場が大きく増加したことに加え、博物館・美術館市場における運営管理の受注計上を変更したことなどにより前年同期に比べ16.3%増加した
- 受注残高は、大型複合施設の改装を受注しているほか、水族館、アミューズメント施設、ホテルの新装・改装需要が活発な余暇施設市場の大型案件の受注により高い水準を確保している

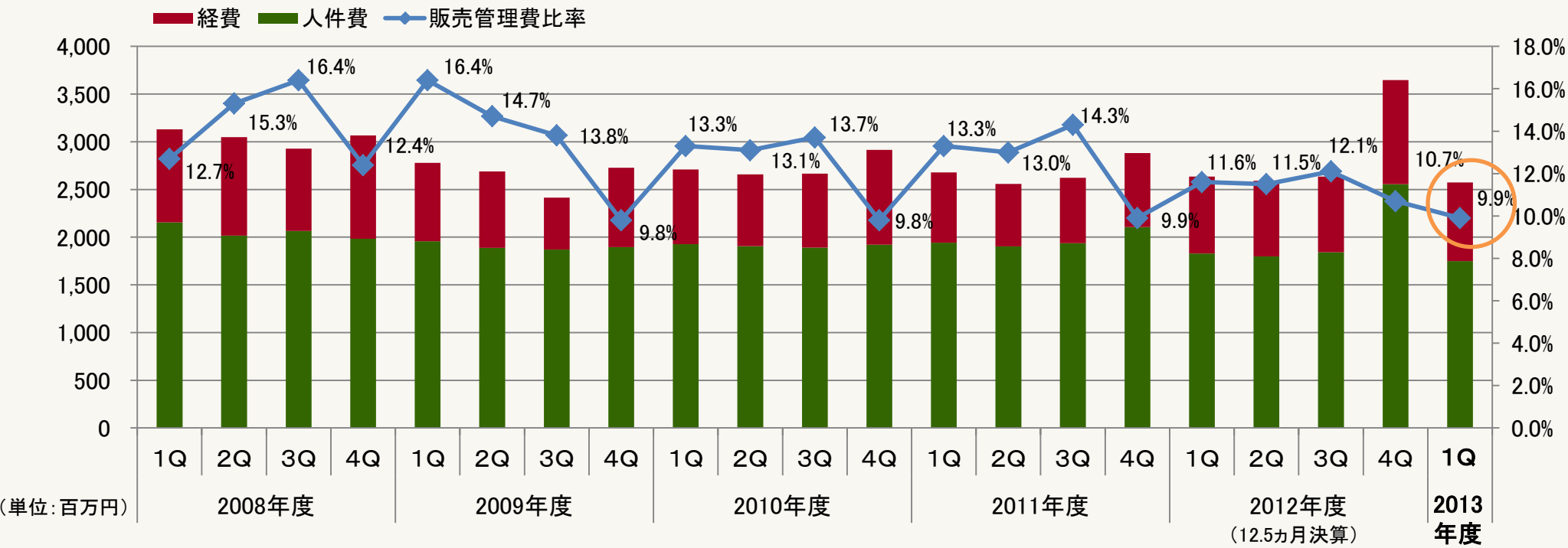
＜第1四半期＞	2012年度		2013年度		受注高　前年同期比 増減額（率）		受注残高　前年同期比 増減額（率）	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高				
専門店市場	8,577	7,057	10,544	7,055	1,966	22.9%	△1	△0.0%
百貨店・量販店市場	2,083	1,750	1,690	1,256	△392	△18.9%	△494	△28.2%
複合商業施設市場	1,438	2,175	1,105	3,549	△332	△23.1%	1,374	63.2%
広報・販売促進市場	4,507	5,418	4,551	5,319	43	1.0%	△98	△1.8%
博物館・美術館市場	2,148	3,088	4,466	4,875	2,318	107.9%	1,786	57.8%
余暇施設市場	821	1,270	1,031	3,654	210	25.6%	2,384	187.7%
博覧会・イベント市場	384	468	251	304	△133	△34.7%	△164	△35.0%
その他市場	1,458	4,105	1,276	2,970	△182	△12.5%	△1,134	△27.6%
合　計	**21,419**	**25,334**	**24,916**	**28,985**	**3,497**	**16.3%**	**3,650**	**14.4%**

（単位：百万円）

（注）不動産事業と飲食・物販事業は受注概念が異なるため、記載していません。

販売管理費の四半期推移

- 前年同期に比べ経費が若干増加したものの、人件費の抑制により販売管理費は減少した
- 売上高の増加により販売管理費比率は9.9%に低下した



経費	974	1,032	861	1,082	822	801	545	832	783	753	776	993	736	654	684	776	805	795	793	1,091	824
人件費	2,156	2,017	2,066	1,984	1,956	1,888	1,869	1,896	1,927	1,906	1,891	1,921	1,943	1,903	1,937	2,105	1,829	1,797	1,842	2,566	1,749
販管費　計	3,131	3,049	2,927	3,067	2,778	2,689	2,415	2,728	2,710	2,659	2,667	2,914	2,680	2,557	2,621	2,881	2,635	2,593	2,635	3,657	2,574

（単位：百万円）

連結損益計算書

＜第1四半期＞	2012年度	2013年度	前年同期比　増減額（率）		ポイント
売上高	22,712	25,983	3,270	14.4%	売上高は、商業施設への出店意欲が旺盛な専門店市場、メーカーのショールームを多数手掛けた広報・販売促進市場が増加したことにより30億円を超える増収となった
売上総利益（率）	2,608（11.5%）	4,254（16.4%）	1,645	63.1%	引き続き市場環境が堅調に推移しているとともに、受注判断の厳格化、原価管理の徹底により総利益率が良化した
販売管理費（率）	2,635（11.6%）	2,574（9.9%）	△60	△2.3%	人件費の抑制効果により販売管理費は60百万円の減少となった
営業利益（率）	△26（－）	1,679（6.5%）	1,706	—	売上高の増加に加え、総利益率の良化により大幅な増益となった
経常利益（率）	3（－）	1,735（6.7%）	1,731	—	
特別利益	－	79	79	—	保有有価証券の売却益によるもの
特別損失	61	46	△15	△24.7%	グループ子会社の保有不動産売却にともなう仲介手数料などによるもの
当期純利益（率）	△163（－）	1,031（4.0%）	1,194	—	

（単位：百万円）

連結貸借対照表

		2012年度（12.5ヵ月決算）	2013年度第1四半期	前期末比　増減額（率）		ポイント
資産	流動資産	35,224	34,275	△948	△2.7%	売上債権の回収が順調に進み、支払等に充当されたため、現預金が前期末と同等となり、流動資産は9億48百万円減少し、342億75百万円なった
	固定資産	23,115	23,342	226	1.0%	減価償却の実施があったものの、投資有価証券の取得、時価評価差額の増加などにより2億26百万円の増加となった
	資産合計	58,340	57,617	△722	△1.2%	
負債純資産	流動負債	26,468	24,837	△1,631	△6.2%	支払手形が増加したものの支払等により買掛金が大幅に減少した受注高の増加により前受金が増加したが、工事損失引当金の減少などもあり、流動負債は16億31百万円減少し248億37百万円となった
	固定負債	5,827	5,932	105	1.8%	投資有価証券の時価回復による繰延税金負債の増加などによるもの
	負債合計	32,296	30,769	△1,526	△4.7%	
	純資産	26,044	26,848	804	3.1%	配当金の支払いがあるものの、所有株式の時価回復による、その他有価証券評価差額金増加と四半期純利益の計上により利益剰余金が増加した
	負債純資産合計	58,340	57,617	△722	△1.2%	

（単位：百万円）

2. 2013年度(2014年2月期)
業績予想

このプレゼンテーションには、将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。

社会・経済・競合状況の変動等に関わるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

2013年度 連結業績予想

- 前期が決算期変更による12.5ヵ月決算のため、2013年度の売上高は12ヵ月ベースでみると増収の計画となっている
- 営業利益は、決算期変更コストがなくなるとともに、総利益率の向上により35億円を計画

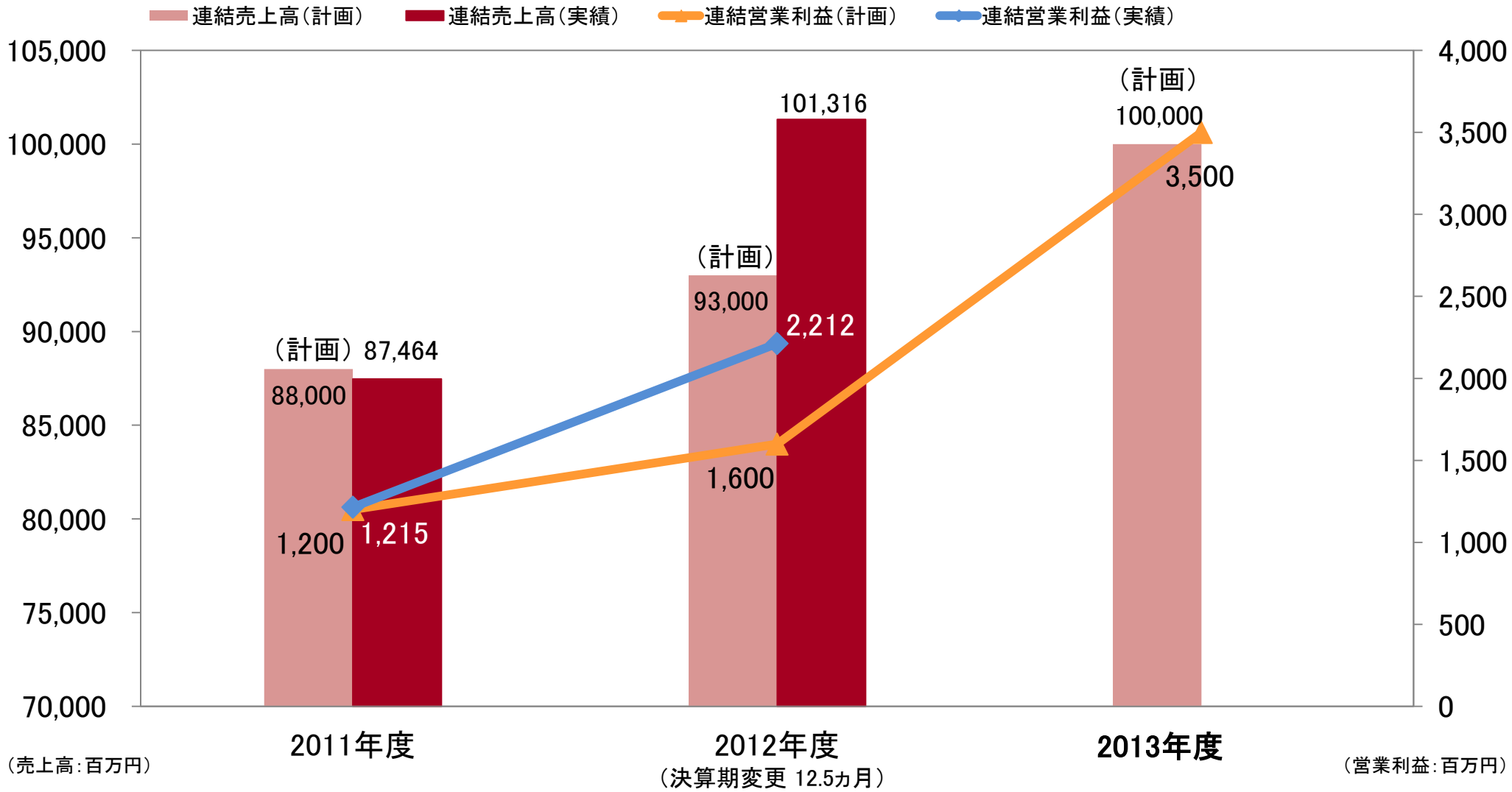
	2012年度 （12.5ヵ月決算）	2013年度（予想）
売上高	101,316	100,000
営業利益	2,212	3,500
経常利益	2,383	3,600
当期純利益	1,242	2,000
一株当たり当期純利益	22.25円	35.82円
一株当たり配当金	10.0円 （記念配当2円を含む）	12.0円
配当性向	44.9%	33.5%

（単位：百万円）

（注）実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

中期経営計画3ヵ年の業績推移

◆ 2013年度は12ヵ月決算で売上高1,000億円を計画、営業利益 5期連続の増益を目指す



（注）実際の業績は上記の業績予想と異なる可能性がありますので、ご承知おきください。